

貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	25,070	流動負債	7,973
現金及び預金	20,147	支払手形	18
受取手形	236	電子記録債務	2,990
売掛金	2,193	買掛金	1,991
商品	714	未払金	1,770
製品	346	未払費用	307
原材料	208	未払法人税等	46
仕掛品	243	未払消費税等	210
貯蔵品	0	賞与引当金	426
前払費用	645	店舗閉鎖損失引当金	58
未収入金	36	その他	153
繰延税金資産	288	固定負債	1,326
その他	18	店舗閉鎖損失引当金	41
貸倒引当金	△ 10	長期預り保証金	600
固定資産	16,811	資産除去債務	624
有形固定資産	8,648	その他	59
建物	2,253	負債の部合計	9,299
アミューズメント機器	2,350	(純資産の部)	
土地	3,795	株主資本	32,579
その他	249	資本金	50
無形固定資産	190	資本剰余金	24,897
ソフトウェア	147	資本準備金	230
その他	42	その他資本剰余金	24,666
投資その他の資産	7,971	利益剰余金	7,632
前払年金費用	470	その他利益剰余金	7,632
差入保証金	7,275	繰越利益剰余金	7,632
繰延税金資産	27	評価・換算差額等	2
その他	262	その他有価証券評価差額金	2
貸倒引当金	△ 63	純資産の部合計	32,581
資産の部合計	41,881	負債・純資産の部合計	41,881

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		39,576
売上原価		27,636
売上総利益		11,940
販売費及び一般管理費		10,119
営業利益		1,820
営業外収益		
受取利息配当金	0	
雑収入	721	722
営業外費用		0
経常利益		2,541
特別損失		
固定資産売却損	15	
固定資産除却損	113	
減損損失	40	
その他	4	173
税引前当期純利益		2,368
法人税、住民税及び事業税	435	
法人税等調整額	171	607
当期純利益		1,761

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

重要な会計方針に係る事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

商品、製品

移動平均法（一部個別法）による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

原材料、仕掛品

移動平均法（一部個別法）による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法）

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物（附属設備含む） 3年～60年

アミューズメント機器 3年～5年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リースに係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

- | | |
|-----------------------|---|
| (4) 引当金の計上基準
貸倒引当金 | 債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額に基づき計上しております。 |
| 賞与引当金 | 従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給対象期間に対応する支給見込額に基づき計上しております。 |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 閉鎖を決定又は予定している店舗等の今後発生すると見込まれる損失について、合理的に見積もられる金額を計上しております。 |
| 退職給付引当金 | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により、それぞれの発生事業年度の翌事業年度から費用処理しております。 |
| (5) 消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。 |
| (6) 連結納税制度の適用 | 連結納税制度を適用しております。 |